谷川岳　マチガ沢東南稜

2009年9月27日

白土悟(Ｌ)、平本三浩（記）

9月後半のこの時期は谷川の沢筋ルートに行くにはベストなシーズンである。残雪は欠片ほどもなく、天気も良さそうだ。
前回は糸井さんとスピーディーに駆けあがれたが、今回は以外と苦戦した場面もあり、毎度の事ながら『谷川は思うように行かない山』の感が強まる。
9/26(土)
前夜に白土君と落ち合い、水上の道の駅で仮眠する。
9/27(日)　晴～曇り
マチガ沢出合いから巌剛新道第一見晴しを経てマチガ沢に降り立つ。ゴーロを遡行すると沢は屈曲しそこに20m位の大きい滝がある。水流右のＶ字溝を登る。少し難しい。
なおもゴーロを遡行するとチョックスト―ンルンゼ（小ゴルジュ）が立ちはだかる。
初めて見るときはそれなりに威圧感や困難感があるが、ここ自体は難しくない。ルンゼの出口からスラブ状の滝へ移るところが少し難しくなっている。この沢にはこのようなチョックストーンルンゼとスラブ状滝のセットが３つあり、その間をゴーロが繋ぐというパターンになっている。難易度はいずれも３+級から4-級ぐらいだが、確保なしで登るには高さがあるので、特にスラブ滝に移る所は緊張する。今回、３っ目のルンゼからスラブ滝に移るところは前回とは異なり、ヌメッて難しかったので、ザイル確保すべきだったと反省。
しかし、適度な緊張感を持ちながら遡行をするも、周囲の風景は牧歌的でのどかである。一ノ倉沢とは大違いである。３っの楽しみどころが終わるとゴーロとなり、右岸から本流面して四の沢が合流。本谷は右から涸沢で合流する。ここからもいくつかの小スラブ滝を越えると、黒っぽい東南稜の袂に着く。
先ずはコーナー状凹角を登る。凹角突き当たりから右のフェースに移ってビレー。
フェースを登り、再び凹角に入って突き当たりまで登るとハングに行き手を阻まれる。
そこには多数のスリングがこちらに手を差し伸べている。ここらあたりはそのクライマーの考え方によるのだろうが、私は素直に従い、ハング下を右へトラバースしてカンテに取り付き、広いテラスに出てビレー。
次は荒れた感じのルンゼを登ると、５mほどの垂壁に突き当たり、やはりハング下を今度は左へトラバースしてビレー。ここからは東南稜の稜上にでて、快適なフェースをぐいぐい登る。ただし、残置ピンなし。１ピッチのところでピナクルとハーケンを一枚打ち足してビレー。さらにフェースとリツジが続くが、中間が取れないし、悪そうなのでやめ、東尾根に続く踏み跡を拾う。
頂上付近には非常に多くの登山者がいるが、今日はガスで稜線から東南稜は見えなかったようだ。私は人知れず、静かなバリエーションルートを満喫できたことの喜びをかみしめる。

9/27　マチガ沢出合い6：30～第一見晴し7：00～四の沢出合い9：30～取り付き10：30～稜線12：00～マチガ沢出合い下山15：00
地形図：水上、茂倉岳(2万5千)